金木戸川　小倉谷

09 年 8 月 8～10 日

L松田、吉田（駒峰山岳会）

8月8日　（雨～曇り～雨）

奈川の道の駅で待ち合わせ、新穂高に1台車を置いて、上宝の道の駅でＣ０。 翌日金木戸川の林道に行くと、第一ゲートが閉まっており、ここからスタートとなる。 歩き始めると雨が降り始め、気合が上がらない。2時間くらい行くと、沢屋のパーティに出会う。双六本谷を目指して昨日入ったが、あまり水量が多いので撤退するとのこと。
確かに足下に見える谷は相当水が多く、小倉谷の出合も渡れないでしょう、と言われた。
ますますモチベーションが下がっていくが、まあ行くだけ行ってダメなら釣りでもして帰ろうということで、さらに1時間ほど歩いて小倉谷の出合いに着く。 心配した本流の渡渉は小倉谷の出合が一番渡りやすそうであるが、それでもまともに渡れるような流れではなく、飛び込みで流芯を越えたが、流れの弱い所にいってもかなりの力でザイルがぐいぐい引かれる。相棒は何を引っ張ってんだろうと振り向くと、引いているのは流れを受けて弓なりになったザイルそのものだった。
ザックピストンで荷物を渡し、吉田さんも渡って小倉谷を見ると、本流よりも遥かに規模が小さく、これで水の心配はないと思ったが、これが間違い。遡行を始めると何ともない河原歩きにも関わらず、渡渉点を見つけるのが結構大変なのである。苦労しながら遡行していくと、最初のトイ状の 10m滝が出てきたが、圧倒的な水量でまるでヒョングリのようだ。 右から巻いて進むが、ちょっとした落ち込み、小滝を越えていくのも水が多いので時間がかかる、ゴルジェの出口では横向きの 15mくらいの滝があるが、ここもすごい水量で、まるで飯豊に来たような感じである。右から小さく巻いて、滝上に出ると河原上になっており、ここを初日の天場に決める。吉田さんがすぐ近くで、あっという間に三匹を釣り上げてきた。焚き火をしていると夕立となり、タープの下に避難。かなり降ったが川幅が広いので水の心配はなさそう。結局この日は焚き火ができず仕舞い。

小倉谷出合の渡渉

下流のゴルジェ内

8月9日　（曇り～夜一時雨）

雨は降っていないが、どんよりした天気である。焚き火の横にあった岩魚は、油でいためて美味しくいただいた。
初日の天場からしばらくは、河原状で単調な感じであるが、やがて大ゴルジェが始まる。最初の20mの瀞を持った小滝は、巻くとなるとのも大変な大巻きになるので、中を泳いで行くしかない。流れが強く、左側の壁沿いに八目うなぎ泳法でぎりぎり何とか取り付けたが、以前あったらしいシュリンゲもなく、水から上がった所でぐったりしてしまい、しばらく息を整えてから登る。

続く小滝は左から巻くと、左から素晴らしい大滝が出会う。まるで本棚みたいな感じだ。問題はすぐ先の左から落ちる 5mの滝である。
ここも巻けないし、ルートとなる水線の左側まで水がかかっていて不安になる。吉田さんが空身で釜の左をトラバースし、リッジを回りこんで水際に立ったが、いきなり頭から水をかぶった。プハーッという音が聞こえてきそうなくらいで、頭を振って息を整えている。不安になったが何とか登りきり、荷揚げしてから空身で続いたが、かなり水を浴びた。ここを抜けると両岸が大分低くなり、圧迫感が減ってくる。その先のちょっとした落ち込みが登れず、右から大きく巻いて懸垂。変な所で時間をとられる。 大ゴルジェが終わるとしばらく美しいナメが続き、いきなり 40mの大滝が現われる。 左から簡単に巻いてさらに進むと、右から本流が 30mの直瀑、左から支流 25mのナメ状の両門の滝が現われる。 左は登れるようだが、この水量ではその気にならず、左から巻き、さらに中間尾根を越えて本流に戻る。しばらく行った左岸にいい天場があった。天気もはっきりしないので、もっと上に行きたかったが、かなり疲れており、ここで行動を打ち切る。
吉田さんはここでも釣りにトライしたが、さすがにここまで来ると岩魚がいないようだ。
この日は何とか薪を集めて焚き火をしたが、ようやく服が乾きそうになった頃から、また雨。

大ゴルジェ 20mの瀞を持つ小滝

二俣の量門の滝

8 月 10 日 (雨～曇り～雨)
夜半から降りがひどくなり、気になってなかなか寝られなかった。予備日はないし、稜線までは 1000m近くあるし、昨日もっと上まで行っておけば良かったと後悔する。
明るくなっても相変わらず降っていたが、行動する頃になるとほとんどあがってくれた。幸いなことに増水は大したことがないようだ。
天場のすぐ上の 3 段 40mの傾斜の緩い滝も、満水状態で全く登れず、左から小さく巻く。 その少し上の 40m直瀑も左から巻いて、滝上の眺めのいい岩盤の上で一休み。相変わらず雨が降っているが、これでもう悪場はないので何とか今日中に帰れそうだ。
やや単調になった沢をどんどん行くと、左から 50 mくらいの多段の滝、右がゴーロ状の二俣になり、天場跡があった。左に入り、多段滝を越えていくと延々と小滝が続く。 また二俣になり今度は右に入ると、すぐの 5m チョックストーン滝を左から巻き、その上に 15mくらいの直瀑が見える。登れるのかな、と思って近づくと左からすんなり越えられた。 源流部の滝はいずれもどこかしらに弱点があって、ノーザイルで越えることができる。ここから先はお花畑の中、延々とガレ登りが続く。
最近山岳ガイドの資格を取った吉田さんは、これ

は何の花、これは何の花と説明しながら、さかんに写真を撮っている。いい加減登った頃、笠ヶ岳山荘に続く夏道に出る。しばらく前から少しずつ遅れるようになっていた吉田さんが、道に出た所で足の不調を訴えた。昨日河原で転んで、膝を痛めたようで、だんだんひどくなってきたとの事である。
夏道でも痛そうだったが、何とか時間をかければ歩けそうだ。山荘に泊まることも考えたが、天気も回復しており、降りられそうだということで笠新道を下降する。杓子平まで来ると、槍・穂高がよく見えた。夏に見るのは初めてで、もっと黒々しているのかなと思ったが、意外と灰色っぽい。それにしてもジャンダルムの格好いいこと。ここからだと奥穂より高く見える。吉田さんのペースだと下山遅れになりそうなので、装備を少しもらってここから先行する。笠新道の長い下りを終えて林道に出るともう暗くなっていた。新穂高までの林道沿いの蒲田川は、強烈な流れが荒れ狂っており、よく沢を登ってこられたなと幸運に感謝する。
誰もいない新穂高のバス待合所に 20 時に着き、下山連絡をしてから、車を回収して林道終点で吉田さんを待つ。かなり遅れるだろうと思っていたが、22 時前に降りてきた。
双六谷のゲートの車を回収し、帰路に着く。
小倉谷はいい沢だが、思っていたより沢が大きく予備日を持って入るべきであったと反省する。
(松田記)

・コースタイム
8 日
ゲート (6：20) ～第 2 ゲート (7：20) ～小倉谷出合 (10：05) ～10m滝上 (13：20) ～天場 (16：40)
9 日
天場 (7：00) ～ゴルジュ手前の右支沢 (8：25) ～ゴルジュ斜滝上 (11：20) ～ナメ (12：45)
～下の二俣・二条 5m (14：30) ～二俣 (14：40)
～二俣上 1780m天場 (15：35)
10 日
天場 (6：50) ～大滝 30m下 (7：30) ～大滝上 (7：55) ～多段の滝下二俣 (8：55) ～笠ヶ岳山荘 (13：10)
・地形図　笠ヶ岳

水量の多い 3 段 40m滝

源流部の多段の滝